

## **平成31年度事業計画**

実態のみえづらいひきこもり。最近では「大人のひきこもり」や「8050問題」などと注目され、大きな社会問題として取り上げられるようになってきている。

40歳以上のひきこもり実態調査の発表も待たれる中、徐々に法整備も進みつつあるが、社会現象と共に大きく変化しているひきこもり支援のあり方について、益々問われてくるのではないかと思われる。

個々の状況に応じた支援のあり方はもちろん、多様性が求められる社会のあり方も重要で、様々な関係機関や団体が、それぞれの仕組みを活用し補いあう、総合的な支援を發揮することが必要と思え、昨年に引き続き、連携による取り組みを今後も模索したいと考えている。そして、ひきこもる人達が孤立せず支援者や地域社会と繋がり、折り合いながら自立を目指せる支援体制を広める事が、今悩んでいる本人や家族のニーズに深く答えることだと思ひ、これまでと同様、今年もひきこもり問題にしっかり取り組んで行きたいと考えている。

### **1)居場所づくりプログラム**

居場所には、他者との交流や広がりの中で、自分を知る、現状を振り替える、客観的に見ることができ、前向きになれるなど、自信を取り戻す過程がある。また、スタッフやメンバーと共にいろいろなプログラムや体験を通じ、自分だけではないとの気づきや必要な知識の吸収、学びが得られる場所でもある。そんな居場所「和の家」において、社会体験やレクレーション、生活支援などを通して各自が目標をもって集える場所としての運営を行う。

- ・毎週 月・(水)・木・土曜日、第一日曜日の開設
- ・相談支援や生活支援
- ・社会体験などのプログラム活動
- ・交流の場
- ・レディースデイの開催
- ・日中一時支援受託 など

### **2)就労支援プログラム**

居場所における体験から、次へのステップを目指してみたいとの気持ちも育ててくる。社会性を身につけるだけでなく、就労への意欲が高まり、社会復帰に向けた準備として、体力の向上、対人スキルの向上、就労に必要な技術の習得などが必要となる。「和の郷」は居場所機能と学習機能を持った働く場であり、仲間やスタッフと共に、安心・安全に体験や経験ができ、働く自信を獲得する場所として本人の目指す社会復帰を応援する。

- ・軽作業を通じた体力作りや就労体験
- ・技術の習得
- ・社会性や対人スキルの習得（SST）
- ・仕事体験、仕事のマッチング
- ・企業開拓や仕事づくり など

### **3)その他**

#### ①相談支援プログラム

- ・家族支援としての来所相談や定期面談（電話相談含む）
- ・訪問支援（サポーター派遣事業）
- ・家族塾の開催 など

#### ② ニーズの掘り起こし、啓発活動

- ・ひきこもり理解の為の研修会（講座）の開催
- ・関係機関や団体等との情報交換や連携事業など
- ・メールマガジンの発信
- ・広報活動（ホームページでの情報発信・通信発行・なごみフェスタなど）
- ・事業を遂行するためのファンドレージング 他